

全国知的障害者施設家族会連合会秋田大会

全員参加型討論会

第1日目：主に家族からの話題提供

第2日目：主に福祉事業所からの話題提供

全員参加型討論会

◇ 10月3日(火) 主に家族からの話題提供者3名

- (1) 家族の高齢化により在宅での養育が困難になっていることについて
秋田県 秋田県手をつなぐ育成会 会長 高橋 精一氏
- (2) 強度行動障害により、施設での利用が困難になり、自傷・他害により家族での養育が困難になっていることについて
兵庫県 全国知的障害者施設家族会連合会 理事長 由岐 透氏
- (3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を求めて
宮城県 あおば園家族会 会長 大野 真知子氏

◇ 10月4日(水) 主に障害福祉事業所からの話題提供者3名

- (1) 意思決定支援が課題となる事例について
兵庫県 社会福祉法人愛心福祉会 理事長 福田 和臣氏
- (2) 65歳以上介護保険優先と高齢化や看取りへの取り組み・課題について
宮城県 宮城県知的障害者施設家族会連合会 顧問 二階堂 明彦氏
(宮城県知的障害者福祉協会会長・東北地区知的障害者福祉協会副会長)
- (3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を目指して
秋田県 後三年鴻声の里 サービス管理責任者 安藤 拓哉氏

《目次》

全員参加型討論会	1
コーディネーター資料	2
10月3日(火) 主に家族からの話題提供	3
(1) 家族の高齢化により在宅での養育が困難になっていることについて	4
(2) 強度行動障害により、施設での利用が困難になり、自傷・他害により家族での養育が困難になっていることについて	5
(3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を求めて	9
10月4日(水) 主に障害福祉事業所からの話題提供者3名	16
(1) 意思決定支援が課題となる事例について	17
(2) 65歳以上介護保険優先と高齢化や看取りへの取り組み・課題について	18
(3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を目指して	25

コーディネーター：北九州市立大学教授 小賀 久氏

助言者：全国知的障害者施設家族会連合会副理事長 南 守氏

10月3日(火)

主に家族からの話題提供

全施連顧問

小賀 久

コーディネーター資料

「いろんな人がいてあたりまえ」「いろんな人がいていい」という理念からもう一歩進めて「いろんな人がいることができる」社会の実現をめざす！

今は「いろんな人がいてあたりまえ」「いろんな人がいていい」という理念が定着しています。しかしながら、「いろんな人がいることができる」社会はまだ実現していません。

「いろんな人がいることができる」条件が必要です。

当面、そのために何が必要か

1、本人・家族に向けては

※安心・安全そして快適な支援を求めるために、まずは利用契約からの法的保護、例えば“社会福祉契約利用者保護法”が必要です。(別紙で説明)

2、事業者に向けては

※安心・安全そして快適な支援をどの様に構築するのかを検討する必要があります。

社会福祉法人制度改革は法人組織のあり方や、財務を中心とした改革であり、支援内容の改革と充実には繋がっていません。

職員の支援体制を豊かにするための支援内容の検討と、それに応じた支援給付を国に求めていくことが必要です。

《プロフィール》

現職：北九州市立大学 教授

専攻：社会福祉援助論、障がい者福祉論

社会的活動：

福岡県介護保険広域連合第2期～7期介護保険計画策定委員会会長、福岡県介護保険広域連合地域密着型サービス協議会会長、福岡県介護保険広域連合介護保険計画検証委員会会長、直轄地区（直方市・宮若市・小竹町・鞍手町）障害者自立支援協議会会長など

(1) 家族の高齢化により在宅での養育が困難になっていることについて

秋田県 秋田県手をつなぐ育成会 会長 高橋 精一氏

(2) 強度行動障害により、施設での利用が困難になり、自傷・他害により家族での養育が困難になっていることについて

兵庫県 全国知的障害者施設家族会連合会 理事長 由岐 透氏

(3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を求めて

宮城県 あおば園家族会 会長 大野 眞知子氏

.....
(1) 家族の高齢化により在宅での養育が困難に
なっていることについて

秋田県 秋田県手をつなぐ育成会

会長 高橋 精一 氏

.....

(公益社団法人) 秋田県手をつなぐ育成会
市長 高橋 精一

家族の高齢化による在宅での療育が困難になっていることについて

平成 29 年 4 月 1 日現在

1. 秋田県の現状

(1) 知的障害者数

	総数	入所施設	通所施設	在宅	ウチ就労
男	4, 274	1, 204	1, 459	1, 611	311
女	2, 957	978	871	1, 108	132
	7, 231	2, 182	2, 330	2, 719	443

(参考) ほかに知的障害児数は、1, 456人である。

(2) 年齢別状況

	総数	39歳以下	40～59歳	60～70歳	70歳以上
男	4, 274	2, 158	1, 212	553	351
女	2, 957	1, 209	853	441	453
総数	7, 231	3, 368	2, 065	994	804
ウチ入所施設	2, 016	393	719	528	376

(3) 入所施設 入所施設数 47 (うち東京都委託施設 7)

2. 事例

(1) 祖母が孫娘を絞殺し、入水自殺

(2) 父親がガンを発症し、娘の施設入所に難航

(3) 医療的ケアが必要で他県の施設に移行

3. 高齢化と親亡き後

- 親が面倒見れなくなったらどうするのか
- 親亡き後の住まいと誰が守ってくれるのか
- 仲間とうまくやっていけるだろうか
- 金銭的に間に合うだろうか
- 病気になったらどうなるのか

.....

(2) 強度行動障害により、施設での利用が困難になり、自傷・他害により家族での養育が困難になっていることについて

兵庫県 全国知的障害者施設家族会連合会
理事長 由岐 透氏

.....

親として思うこと

1. 自己紹介

1940年1月1日生まれ

職業 税理士

活動 全施連理事長、ひょうごかぞくねっと会長、ひふみ園家族会会長
社会福祉法人3法人の監事、

趣味 ゴルフ、寝る

信念 天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず、(福沢諭吉)

2. 大(だい)君のプロフィール

1967年11月2日 誕生(酸欠状態で出生)
自閉症、情緒障害、行動障害、知的重複障害

1970年4月 ひまわり学園土曜保育

1971年4月 丸山学園入園

1972年4月 湊川女子短大付属神陵台幼稚園入園

1973年4月 垂水小学校なかよし学級入学

1975年4月 千代が丘小学校なかよし学級入学

1982年4月 青陽西養護学校中等部入学

1982年4月 青陽西養護学校高等部入学

1982年7月 青陽西養護学校高等部一学期終了後中退

1982年9月 (社)くすのき会神戸学園(児童入所施設)入所

1988年10月 神戸学園廃止、成人施設ひふみ園に統合
現在に至る

3. 大の成長と共にあゆむ

- ・虐待事件 大君脳頭蓋骨陥没で神戸市民病院集中治療室入院
- ・社会福祉法人くすのき会ひふみ園に兵庫県障害福祉課特別監査
刑事事件に発展、松山理事長に刑事罰 虐待事件、措置費を着服、障害基礎年金着服その額10億円
極悪非道の限りをつくした施設長、理事長、理事会に姿勢を正すことができな
かった利用者家族、職員の不甲斐なさ、人権侵害に対する人権意識の欠如
- ・ひふみ園家族会々長に就任
- ・兵庫県知的障害者施設保護者会協議会監事就任

- ・兵庫県知的障害者施設利用者互助会監事就任
- ・兵庫県手をつなぐ育成会監事就任
- ・神戸市手をつなぐ育成会理事就任
- ・運営適正化委員会委員就任
- ・ひょうごかぞくねっと会長就任
- ・全国知的障害者施設家族会連合会々長就任
- ・デンマーク知的障害者施設視察2回 親の会の代表と懇談

4. パパの子育て忘れられないこと

- ・利用施設の選択
- ・何度も挫折しながら
ひふみ園から無断外出
阪神大震災以降月1回本屋さん、喫茶店
ここ10年ぐらい外出はパパと一緒に
ひふみ園移転 近隣住民の障害者に対する無理解
神戸市障害福祉部、ひょうごかぞくねっと会員の応援
虐待を受けたとき、ひふみ園が特別監査を受けたとき
- ・全施連が結成されたとき
- ・神戸市が総合福祉センターに事務局を置かせて頂いたこと

5. 「この子らを世の光に」

糸賀一雄先生は「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」といわれました。それはこの子らは存在によって人間性の在り方や社会の歪みを写し出し、友愛に満ちた社会の実現を声なき声で願っているからでしょう。アメリカの有名な障害者であったヘレン・ケラーは「障害を持つことは不自由であっても不幸ではない。不幸にしているには社会の差別だ」との名言を残しています。

6. 2000年以降の障害福祉の変遷これからの展望

- ・2000年社会福祉基礎構造改革 措置制度から契約制度
- ・障害福祉と介護保険との統合
- ・知的障害者の自立とは
- ・親の自立
- ・障害のある子を持つことは恥ずかしいことではない。社会に必要性があって生まれてきて感謝される存在

詩画集

あなたのおかあさんでよかった

詩 石井恵子

1949年12月、茨城県久慈郡大子町生まれ。68年、県立大子二高卒業。
70年、結婚。77年、次男誕生。95年県立勝田養護学校高等部を次男卒業、両親の介護重なる。97年、乳癌発症。99年、第二幸の実に次男入所。

心を紡いで

障害という文字が 動かせない事実となった日から
私は
あなたの心を紡ぎ始めた やさしさを縦糸に ありがとうを横糸に

いくつもの季節の中に 母の想いを織り込んで
今
飛び立ったあなたは 幸の実の園へ

幸の実が育つところ それは つなぎ合った手のぬくもりの中

知っていますか

小さな怪獣のような 幼い頃のあなたに 最小限の社会のルールを
覚えてほしいと願った あの戦いの日々 あなたの抵抗は
泣き叫び嘔みつくこと

どんなに騒いでもひるまない どれだけ嘔まれても痛くない

あなたの心の嵐が静まるまで あなたを抱きしめて
平然としていたけれど 本当はお母さんのほうが
先に泣きたかったことを あなたは知っていますか

寝顔

どんな反抗にも動じないと 強い母を装った
あの子との戦いの日々に 私の心を癒したのは
あの子の寝顔
明日の朝目覚めるまで 束の間の静けさのなかで
不安やいらだちから解放された 穏やかな寝顔を見つめながら
この時が
このまま止まってほしいと 願ったこともありました

父と母の会話

今ごろ何してるかな

何気ない日々の暮らしに ふと口から洩れる言葉は いつも同じ

あの子が巣立って行って 急に広くなった部屋で
もう寝たかなで終わる 父と母の会話です

あなたのお母さんでよかった

あなたと歩いた20数年は 迷子になりそうな日々だったけれど
あなたのお母さんになったから 出会えた人がいるのです
あなたのお母さんになったから 見えたものがあるのです

だから
あなたに会えてよかった あなたのお母さんでよかった

.....
(3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設
を求めて

宮城県 あおば園家族会

会長 大野 眞知子 氏

.....

「終の住処」として安心して託せる支援施設を求めて

宮城県 あおば園家族会 会長 大野 真知子

【あおば園の概要】

- ・社会福祉法人 千代福祉会の障害者支援施設4施設（他におおぞら学園、ますみ学園、清風園）あるうちの高齢者を中心とした施設です。

開設年月日 平成5年4月1日

職員 25名（うち看護師1名、支援員16名（内パート2名））

【利用者状況】

- ・利用定員 入所50名（男子26名 女子24名）
- ・平均年齢 70歳10か月
- ・利用年数 平均15年1か月
- ・障害支援区分 平均 4.92
- ・居室の状況 全室2人部屋
- ・車いす使用者 17名
- ・歩行者 5名
- ・杖 2名
- ・特別浴槽利用者 10名
- ・食事の形態 刻み食27名 ミキサー食5名など利用者の健康状態に合わせて対応

【今回話題提供するにあたって】

- ・あおば園は千代福祉会の支援施設の中で他の3施設に比べ一番新しく、かつ高齢者棟として造られたもので、比較的安心して暮らせる場所である。それでも年々高齢化が進み、車いすの利用者も増え、ベッドの使用が必要となってきている。現在の居室（和室）の形態を変える必要があるのではないかと。また、通院が多く、付添のため職員の負担、夜間など看護師不在の時の突発的な病気やけがに対する対応など多くの問題が出てきている。

- ・あおば園家族会の会員45名にアンケート調査を実施する。

併せて千代福祉会の障害者支援施設、ますみ学園、おおぞら学園、清風園の家族会会長3名にもアンケートのご協力をいただきました。

（アンケートの結果は別紙のとおりです）

【アンケート結果について】

- ・今回のアンケートから、施設利用者への対応について満足しているが（78.8%）、高齢化への対応について充分であるが（81.8%）であり、施設における利用者へ支援や高齢化への対応については満足していることが伺えます。
「終の住処」はどこが望ましいか、ということについては「今までの施設」もしくは「千代福祉会の施設」を望むとしている家族が8割（84.8%）を超えていました。
- ・現在の施設を「終の住処」として託すためには、何が必要か？ということでは（複数回答）、十分な支援体制が72.7%、ついで高齢者の施設整備（居室含む）が33.3%、そして看護師の複数配置が21.2%となっています。
- ・この結果から、現在は満足しているが、将来的には改善の余地があると考えている人が多いと思われます。

*「終の住処」って何ですか？

- ・全施連の全国大会がある度に開催県の先進的な施設を見学させていただいてきました。看取りまで考えている施設もありました。でも、そこまで対応している施設はまれではないでしょうか。
- ・あおば園では、看取りはできないでしょう。医療行為ができない。（体制が整っていない）でもふと思いました。高齢者の介護施設は、看取りはあるでしょうが、それでも病院に入院中に亡くなる人もいるし、在宅の人も家で最期を迎える人は少ないと思う。
- ・入所施設を利用している人も同じである。最後は、介護施設になるか病院になるかわからないが、今住んでいるところで、支援員さんに見守られ、ぎりぎりまでみんなと仲良く暮らせる入所施設を望みます。
- ・アンケートの結果からもわかるように、十分な支援体制、看護婦の複数配置（夜間体制）、高齢者のための施設整備、などが挙げられますが、これには、多方面からの働きかけが必要となります。

あおば園家族会会員アンケート(集約)

配布数45通 回答数33通 (回収率73.3%)

I 利用者についてお聞きします

(性別)

男性	18名	女性	14名	未回答	1
----	-----	----	-----	-----	---

(年齢)

50代	3名	60代	11名	70代	13名	80代	6名
-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----

(入所期間)

5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～25年未満	25～30年未満	30～35年未満	35～40年未満	40年以上
4名	5名	4名	3名	4名	3名	3名	2名	3名

(未記入 2名)

II あなたについてお聞きします

(年齢)

40代	50代	60代	70代	80代	90代
1名	5名	6名	13名	6名	2名

(続柄)

父・母	兄弟・姉妹	兄弟姉妹の配偶者	甥・姪	その他
3名	18名	7名	2名	3名

III 現在入所している施設についてお聞きします

*現在の利用者への対応について

大変満足している	満足している	特に問題ない	やや不満である	未記入
9名	17名	5名	1名	1名

*高齢化への対応は充分と思われますか?

充分だと思う	不十分だと思う	未記入
27名	5名	1名

(やや不満の理由)

- ・着替えの衣類の各部屋のなど居住関係の対処にやや物足りなさを感じます。

(不十分の理由)

- ・高齢者への医療対応について、より手厚く迅速な処理ができるよう望みます。
- ・老弱者の行くところがない。
- ・職員が忙しい様子、人数を多くしてほしい。
- ・介護士、看護師が不足
- ・不十分のような気がするが、状況を理解するに至っておりません

IV 利用者にとって「終の住処」はどこが望ましいと思いますか

今までの施設生活	施設は変わっても千代福祉会の施設	グループホーム	在宅	介護施設	病院	未記入
22名	6名	0名	0名	3名	0名	2名

V 現在の支援施設を「終の住処」として託すためには、何が必要だと思いますか

(複数回答あり)

十分な支援技術	医療技術	看護師の複数配置	高齢者のための居室	高齢者のための施設整備
24名	1名	7名	2名	9名

その他ご意見がありましたら

- ・本人が今住んでいる施設が楽しいと思ってほしい。良い職員さんとの出会いを願っています。
- ・介護士、看護師の不足
- ・利用者も保護者も否応なしに高齢化します。やむを得ず今の施設を退所しても障害のある高齢者が入所できる施設探しは容易ではありません。現在の入所施設の線状に介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどがあれば、保護者も安心して託すことができます。是非作ってください。

アンケートにご協力下さい!!

千代福祉会 家族会会長
施設事業開始 昭和51年

該当するところを○で囲むか、記入をお願いします

I 入所している施設についてお聞きします

利用者への対応について

大変満足している 満足している 特に問題はない やや不満である
不満である (理由)

4人部屋で生活しており、プライバシーや8畳程度の部屋で建物も古くなっている。

高齢化への対応は充分と思われませんか

充分だと思う

不十分だと思う (理由)

階段があり、車いすは使えない。

II 利用者にとって「終の住処」はどこが望ましいと思えますか

今までの施設での生活 グループホーム 在宅 介護施設 病院
その他

III 今までの施設を「終の住処」として安心して託すためには、何が重要だと思えますか、

十分な支援体制 医療技術 看護師の複数配置 高齢者のための居室

高齢者のための施設整備

その他

その他ご意見がありましたら

平成32年頃までに建て替えの計画があるが、病気や65歳問題などに対してどうなっていくか不安である。

ご協力ありがとうございました

宮城県知的障害施設親の会連合会

アンケートにご協力下さい!!

千代福祉会 家族会会長
施設事業開始 昭和54年

該当するところを○で囲むか、記入をお願いします

I 入所している施設についてお聞きします

利用者への対応について

大変満足している 満足している 特に問題はない やや不満である
不満である (理由)

一所懸命従事していることは十分に理解できるが、職員のモチベーションが感じ取れない。

高齢化への対応は充分と思われませんか

充分だと思う

不十分だと思う (理由) 今は十分だが、高齢者の人数が増加してくると人的(職員数)な問題が出てくると思われる

II 利用者にとって「終の住処」はどこが望ましいと思えますか

今までの施設での生活 グループホーム 在宅 介護施設 病院
その他

寝たきりや医療行為が伴う状態になったときは介護施設か病院

III 今までの施設を「終の住処」として安心して託すためには、何が重要だと思えますか、

十分な支援体制 医療技術 看護師の複数配置 高齢者のための居室

高齢者のための施設整備

その他

第一は十分な支援体制(職員の増員)併せて居室などの施設整備

その他ご意見がありましたら

当方の施設は、利用者50人中9人(18%)が65歳以上の高齢者である。この割合がこれから増加していく傾向であるため今の人員(職員)体制で大丈夫か心配である。

ご協力ありがとうございました

宮城県知的障害施設親の会連合会

アンケートにご協力下さい!!

千代福祉会 家族会会長

施設事業開始 昭和62年

該当するところを○で囲むか、記入をお願いします

I 入所している施設についてお聞きします

利用者への対応について

大変満足している 満足している 特に問題はない やや不満である
不満である (理由)

入所施設の利用を継続し、行事などに参加しながら他の利用者と仲良く
楽しく生活している

高齢化への対応は充分と思われますか

充分だと思う

不十分だと思う (理由)

建物など

II 利用者にとって「終の住処」はどこが望ましいと思いますか

今までの施設での生活 グループホーム 在宅 介護施設 病院

その他

健康に過ごせるよう体力の維持を図りながら落ち着いた生活を送れる

III 今までの施設を「終の住処」として安心して託すためには、何が必要だと思いますか、

十分な支援体制 医療技術 看護師の複数配置 高齢者のための居室

高齢者のための施設整備

その他

高齢者にとっては、静かにマイペースで暮らせたら良いのではないかな。

介護施設的な要素があり、支援体制も十分であるならば、なお良いのでは。

その他ご意見がありましたら

住み慣れた環境で生活が送れば最高（入所施設）。日中活動に参加して体を動かし生活介護などにも支援目標をもって落ち着いて過ごせると良い。

例えば、ストレス発散の仕方・・・音楽に合わせて体を動かし歩け歩けしたり、休日は本人の好きな陶芸に行ったりカラオケなどがあると、情緒や行動面で落ち着いて過ごせるかな。

親が高齢の場合も同様な考えで、入所施設で皆と一緒に過ごさせたい。満足している

ご協力ありがとうございました

宮城県知的障害施設親の会連合会

10月4日(水)

主に障害福祉事業所からの話題提供者3名

(1) 意思決定支援が課題となる事例について

兵庫県 社会福祉法人愛心福祉会 理事長 福田 和 臣 氏

(2) 65歳以上介護保険優先と高齢化や看取りへの取り組み・課題について

宮城県 宮城県知的障害者施設家族会連合会 顧問 二階堂 明 彦 氏

(宮城県知的障害者福祉協会会長・東北地区知的障害者福祉協会副会長)

(3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設を目指して

秋田県 後三年鴻声の里 サービス管理責任者 安藤 拓 哉 氏

コーディネーター：北九州市立大学教授 小賀 久 氏

助 言 者：全国知的障害者施設家族会連合会副理事長 南 守 氏

.....
(1) 意思決定支援が課題となる事例について

兵庫県 社会福祉法人愛心福祉会
理事長 福田和臣氏

.....

意思決定支援について（話題提供）

社会福祉法人愛心福祉会
理事長 福田 和臣
(兵庫県)

1. 意思決定支援とは

意思決定支援とは、自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最終の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいう（「意思決定支援ガイドライン」H29.3.31より）

2. 意思決定を構成する要素

- (1) 本人の判断能力
- (2) 意思決定支援が必要な場面
 - ①日常生活における場面
 - ②社会生活における場面
- (3) 人的・物理的環境による影響

3. 知的障害者と意思決定

- ・ わかりやすい情報
- ・ 経験
- ・ 支援者の力量（意思を汲みとる力、汲みとった意思を支援し実行する力）
- ・ 意思決定と自己責任

4. 私自らの意思決定

(2) 65歳以上介護保険優先と高齢化や看取りへの取り組み・課題について

宮城県 宮城県知的障害者施設家族会連合会

顧問 二階堂 明彦氏

(宮城県知的障害者福祉協会会長・東北地区知的障害者福祉協会副会長)

平成29年度全国知的障害者施設 家族会連合会 全国大会秋田大会

「障がいの方の高齢化・重度化の支援を
見据えて」

～支援のあり方を考える～

宮城県知的障害者福祉協会会長
宮城県知的障害者施設家族会連合会 顧問

二階堂明彦

障害者総合支援法における介護保険 優先原則について

*障害者総合支援法

第7条 自立支援給付は、当該施設の状態につき、介護保険法の規定による介護給付、健康保険法の規定による療養の給付その他の法令に基づく給付または事業であって政令で定めるもののうち自立支援給付に相当するものを受け、又は利用する事が出来るときは政令で定める限度において、当該政令で定める休符又は事業以外の給付であって、国又は地方公共団体の負担において自立支援給付に相当するものが行われた時にはその限度において、行わない。

介護保険制度と障害福祉制度の 適用関係

★社会保障制度の原則である保険優先の考えの下、サービス内容や機能から、障害福祉サービスに相当する介護保険サービスがある場合は、原則介護保険サービスに係る保険給付を優先して受けることになる。

一律に介護保険サービスを優先的に利用するものではなく、申請者の個別の状況に応じ、申請者が必要としている支援内容を介護保険サービスより受け取るのが可能かを判断

話題提供について

障害の方々の高齢化・
重度化
についての事例報告と
考察



2012年度版
社会福祉法人

栗原秀峰会

—くりはらしゅうほうかい—

『共に幸せに生きる』



入所支援施設・法人事務局全量 (栗原市会)

国の方向性とは…

* 我が国が目指すべき社会を、障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」とする

(障害者基本計画:「基本理念」より)

* 施策の変更

措置→契約 入所施設で幸せに→町の中で普通に

* 「障害者の権利に関する条約」の批准

※ 障害がある人達が地域で普通に暮らすこと(ノーマライゼーション)が目標
→共生社会

でも入所施設(障害者支援施設)を否定しているわけではない。

* 障害者支援施設について、地域で生活する障害者に対する在宅支援の拠点としてその活用を図るとともに、施設の一層の小規模化・個室化により入所者の生活の質の向上を図る。

本人の居心地の良い場所を考え

高齢知的障害者 支援の実際

高齢知的障害者支援の主な課題

* 地域でも入所でも支援上の課題は変わらない

* 身体機能と医療的ケアの問題が中心

- ①生活習慣病の予防と健康管理
- ②機能の低下と相応な生活作り
- ③介護と医療的な支え

※ 認知症に対する理解

生活習慣病の予防と健康管理

高齢になっても健康で元気な知的障害者は多い

以前と変わることなく作業を毎日こなす
身体を動かす 行事にも必ず参加する
食欲も旺盛な人

しかし、どんなに元気であっても…

- * 目や耳の機能の低下
- * 唾液量の減少による口腔ケアの問題
- * 3大生活習慣病「がん」「脳卒中」「心臓病」の
予防には気を配る必要がある

障害者支援施設から介護施設へ

*68歳になり、作業活動から手工芸に移る。(良)

*生活の変化がもたらす事 ★車椅子利用になる

★独語 大声 排泄 泣く 認知症 不眠

課題

- (1) 職員の対応
- (2) 老人の生活リズムとは
- (3) 本人にとっての幸せな時間

障害施設入所から介護施設へ

■介護施設への決断(良)

- ①本人への意思確認
- ②職員会議・相談支援との連携
- ③家族への説明
- ④施設退所・・・ショート・・・介護認定・・・体験利用
- ⑤介護施設利用
帰省・不眠・排せつ・認知症状等の軽減

今後の課題として・・・ 判断材料

日常的に丁寧な記録が求められる

*障害の特性や服薬の変化の状況

*年齢にも配慮した詳細な健康診断の実施

*日常生活の変化

支援者が

日誌・ケース記録等へ記録していく必要性和

それをいかに共有するかが大切

◎ 本人の情報を共有し、変化を過去の記録との比較で理解する必要性 判断材料

■本人が輝ける生活を過ごせるか

改正 障害者基本法における 「意思決定の支援」

○「第23条 国及び地方公共団体は、障害者の意思決定の支援に配慮しつつ、障害者及びその家族その他の関係者に対する相談業務、成年後見制度その他の障害者の権利利益の保護等のための施策又は制度が、適切に行われ又は広く利用されるようにしなければならない。」

※「その他の権利利益の保護等のための施策又は制度」には、生活支援等の障害福祉サービスも含まれると解すべきであろう。

まとめ

- ①見立て ライフプラン(親亡き後……)
- ②人間の柱は情緒
- ③医療を直ぐに使わない支援 医療と効果的な連携
- ④介護も知り、障害も知る事が出来る人材の育成
- ⑤私たちの仕事は「輝く」時間の提供・家族も(^_^)!!
報告・連絡・相談

ご静聴ありがとうございました。m()m

-
- (3) 「終の住処」として安心して託せる支援施設
を目指して

秋田県 後三年鴻声の里
サービス管理責任者 安藤拓哉氏

.....

【話題提供】

～「終の住処」として安心して
託せる支援施設を目指して～



社会福祉法人 水交会 後三年鴻声の里
サービス管理責任者 安藤拓哉

○美郷町の紹介



・人口～20,062人
(※平成29年7月末現在)

・療育手帳所持者～成人 150名
児童 34名
(※平成29年3月末現在)

・産業～農業
水の郷百選にも選ばれた
名水を使った酒造、サイダー
納豆、味噌、醤油

・障害福祉サービス事業所
居宅・重度訪問介護 ～ 7事業所
同行援護 ～ 1事業所
行動援護 ～ 2事業所
生活介護 ～ 3事業所
就労継続支援B ～ 3事業所
短期入所 ～ 5事業所
共同生活援助 ～ 4事業所
施設入所支援 ～ 1事業所
計画相談支援 ～ 4事業所



○施設全景



向かいのりんご畑より撮影

○施設入所者の状況 (平成29年7月末現在)

・年齢構成

	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
男性	3人	2人	4人	3人	12人	2人
女性	2人	1人	5人	2人	13人	3人
合計	5人	3人	9人	5人	25人	5人

男性利用者平均年齢：53.2歳 (最高年齢81歳)

女性利用者平均年齢：56.9歳 (最高年齢79歳)

施設利用者平均年齢：55.0歳

・障害支援区分平均

男性利用者平均：4.5 女性利用者平均：4.9 施設利用者平均：4.7

※うち支援区分6の利用者は男女合わせて12名 (重度障害者支援加算申請なし)

○高齢化する施設入所者の対応について

・設備の対応

施設内はバリアフリーになっているが、浴槽だけはバリアフリーではないため、車いす利用者の方々が入浴できるよう簡易浴槽を購入し対応



・権利擁護の対応

成年後見制度の利用について、現在4名の方が制度を利用している



今後、制度の利用が必要となる利用者は増えると思われる

○活動の提供について

食事・入浴・排泄など生活支援の他に、利用者各々の活動希望や能力、障害特性に合わせた活動を提供している

みのり班

農作業（蔬菜の栽培）、施設周辺の除雪作業など

ふきのとう班

軽作業（ポリパック、紙クッション）園芸作業、体操、レクリエーションなど

ふれあい班

委託清掃業務、切干大根作り、広告折り、除雪など

いきいき班

体操、歩行運動、創作活動、音楽を使った運動など

日中の支援員の不足が慢性的に発生しており、二つの班が合同で活動を行わなくてはならないことも・・・



○退所利用者の状況について （平成27年4月～平成29年8月まで）

退所した年	性別	年齢	支援区分	退所となった原因	在所年数
平成27年11月	男	61	6	誤嚥性肺炎（死亡）	40年7か月
平成28年9月	女	80	5	老衰（死亡）	41年5か月
平成28年9月	女	80	6	腎盂尿管がん、尿路上皮がん（死亡）	41年3か月
平成29年3月	男	86	6	介護保険施設へ移行	40年10か月
平成29年3月	女	60	5	介護保険施設へ移行	3年4か月
平成29年5月	男	75	4	高アンモニア血症（死亡）	4年1か月

退所されたAさんへの 取り組みを紹介します

○事例紹介

【概要】

- ・ Aさん : 80歳女性
- ・ 療育手帳 : A
- ・ 入所年数 : 40年
- ・ 支援区分 : 6
- ・ 頑固だけど、とても愛嬌があり表情豊か。ADLは自立していない部分も多いが自分でやりたがるプライドの高さ。言語はなくコミュニケーションを取ることが難しい。

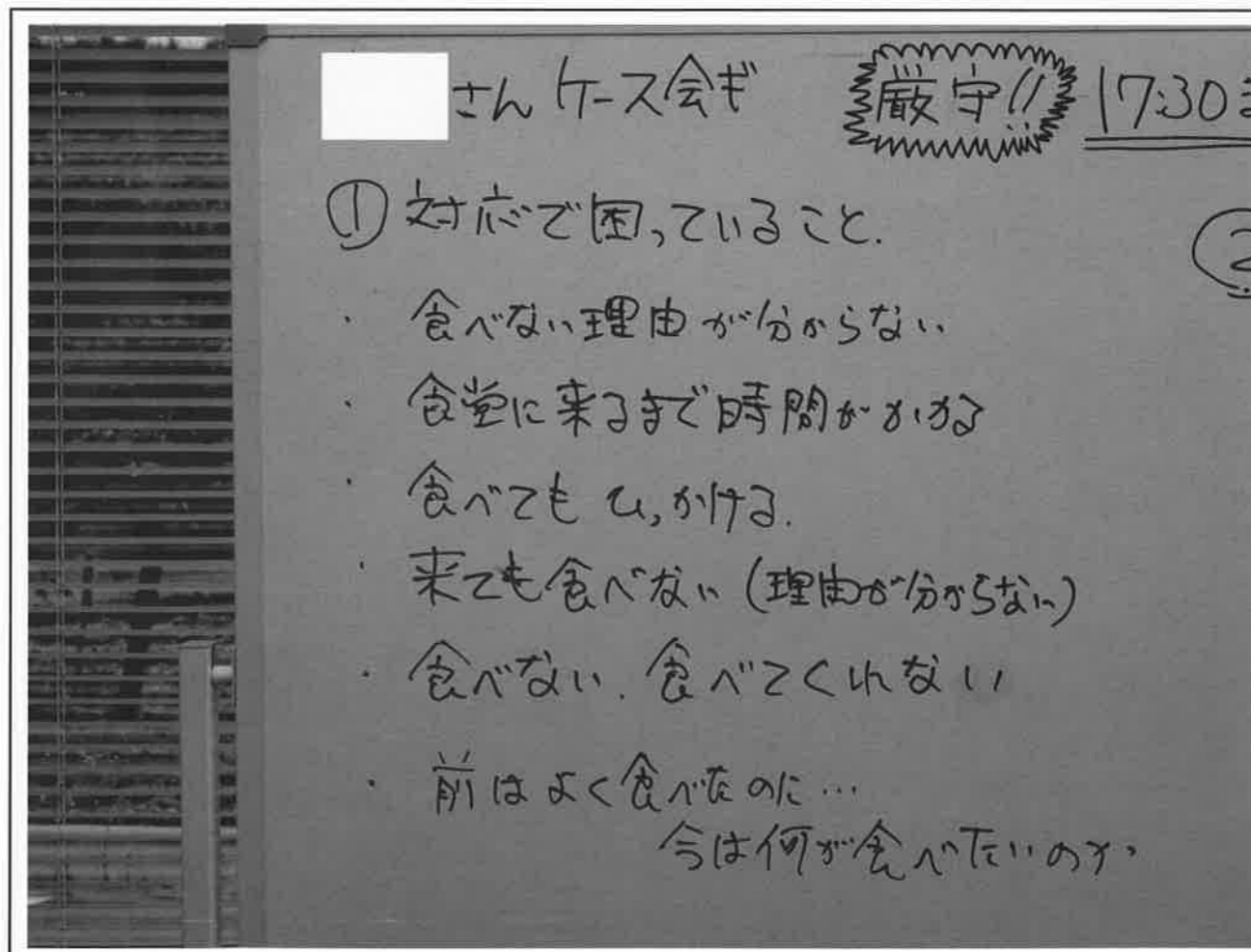
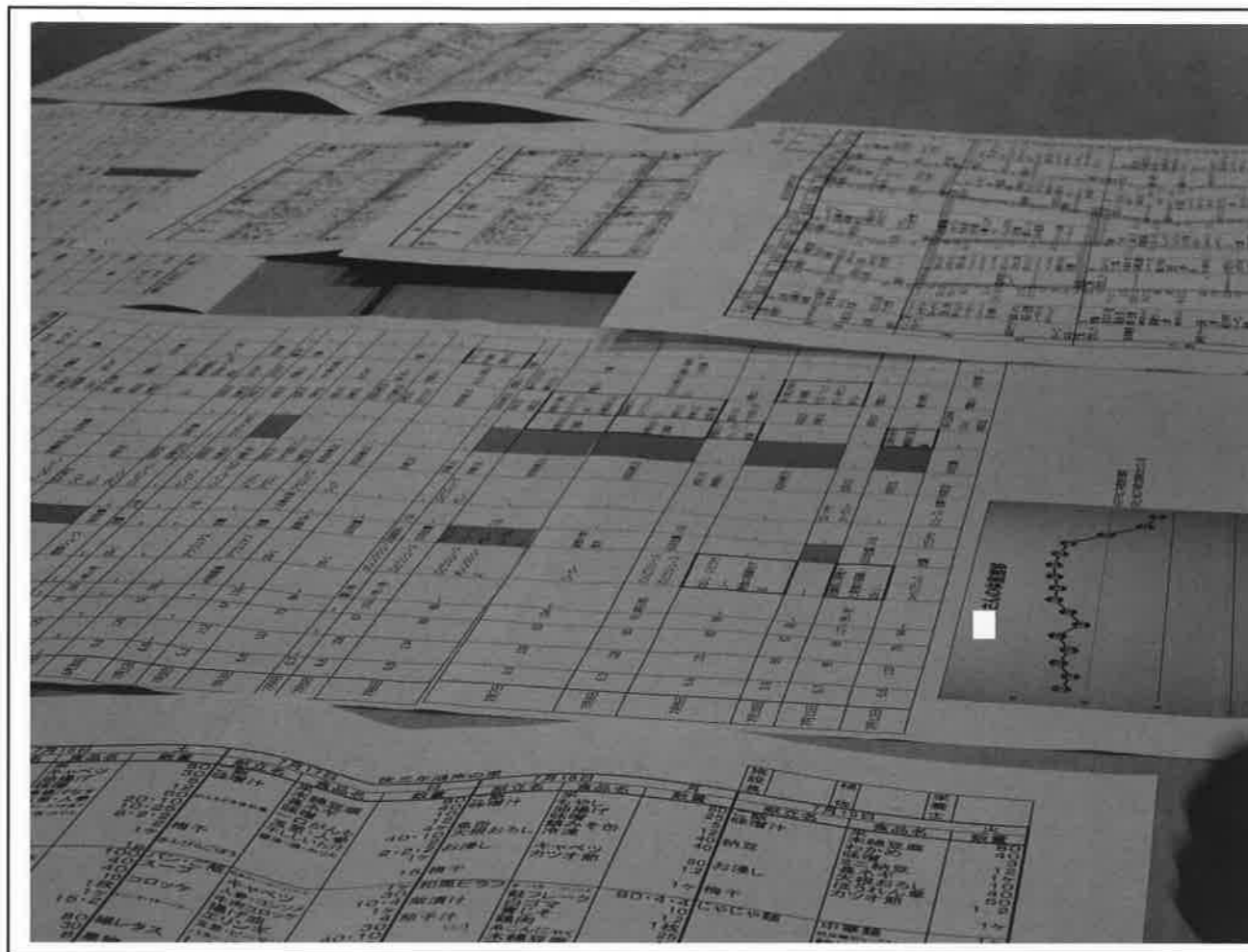
【経過】

平成28年1月～不機嫌で不穏な様子が見られるようになる。1月下旬に医療機関を3回受診するが、この時点で異常所見なし。軟便の失禁目立つ。日中活動に参加できず、居室で休養する日もしばしば。食事量減る。拒薬も。

平成28年5月

不機嫌による拒食、拒薬続く。上旬に再度総合病院を受診。腹部エコーの結果、膀胱結石の疑いあり。そのまま泌尿器科を受診。結石はなかったが、膀胱鏡検査の結果、膀胱に腫瘍あり。後日、腎盂尿管と尿路上皮の悪性腫瘍と診断。余命1年前後と医師より説明。

ケース会議の様子

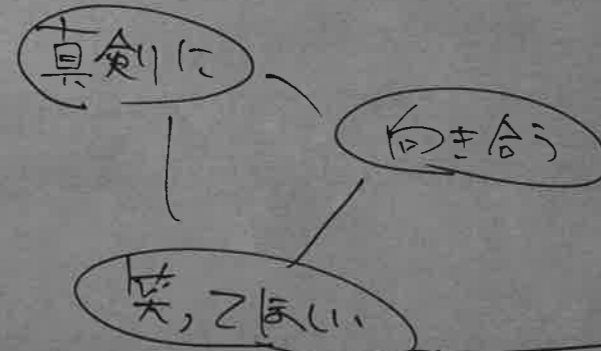


7:30まで(延長戦なし) 8950-

② [] さんの良いところ

- ・ 自分のは自分で → 潤子の良い悪しが分かりやすい
- ・ きちょう面
- ・ がんばり屋
- ・ 本人なりに伝えようとする
- ・ 笑, た顔 (かわい)
- ・ 手伝い 全てではなく
かんばんの場所
- ・ かわいい

④ 好棟の覚悟



○ 私達は [] さんが最後まで
笑, ていくように
真剣に向き合います!!

③ ティータイムからわかること

- ・ 夜間のすいみん状態もよく悪い?
- ・ 夕食ない水分なしだと すいみんが崩れやすくなる
- ・ ほんとうに食べたいと思, て食堂に入, てたか
- 日中活動に参加してると食べている
- 朝の着替えはバロメータ
- 昼食, おやつは食べていることが多い
- 夜は服薬していないことが多い
- 日中の排せつが少ない
- 夜食べないと朝も食べない
(眠れなから?)

亡くなる1か月前のAさんとある日常の一場面

○家族にしかできないことも

●状態の変化、日常の様子、通院結果など家族の方との連絡を多くし、Aさんも電話になるべく出てもらうようにした

●ついに最後を迎えるAさん・・・その時までご家族の方は、何度も病院へ向かってくれた



○退所者へのケアで大事にしたこと

●意思表示も難しくなってきた方には元気だったころの「想い」をケアのキーとした
→ **好きだったこと、その人らしさの実現**

●とにかくこまめに支援を実施し、拒否されてもあきらめず、時間を置いて・・・
→ **少しでも長く、今の時間が続くよう**

○最後になりますが・・・

●本当の意味で一人ひとりと最後の最後まで向き合うには課題がまだまだたくさんある
→ **ケアのレベルアップ、変化していく利用者への対応**

●「終の住処」だけが施設の役割ではなく、「次のステップへの施設」としての役割もある
→ **本人の望む生活を求め続けていくこと**

ご清聴ありがとうございました

